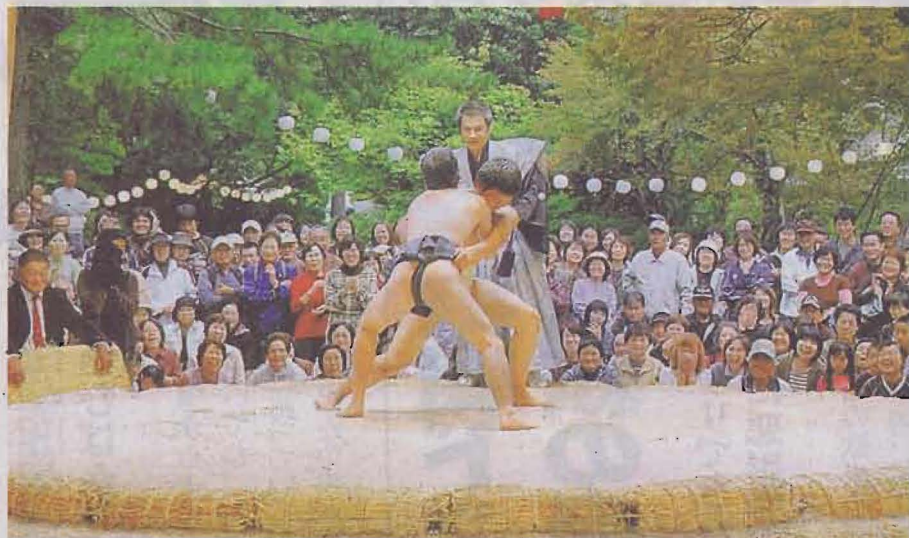


くらし

一畑電車の次は隠岐の島…

先日、隠岐の島での映画撮影が無事、クランクアップした。この場を借りてご協力いただいたたくさんの皆さまに心から感謝したい。

撮影だけで約50日間、俳優陣総勢20人以上、スタッフと合わせると約100人からなる大所帯で、隠岐四島を駆け巡った。一同、隠岐の人情に触れ、海の透明度に驚きながら、島の人たちに助けられての感激のロケとなった。大げさではなく、海の美しさが沖縄以上だと沖縄出身のスタッフが思わずつぶやき、アワビやサザエ、ウニ、イ



隠岐の古典相撲

錦織監督

映画の現場から



●○●15

島の魅力に触れ感激のロケ

力、魚など魚介類の新鮮さとおいしさに目を丸くしていた。しかもブランド牛肉や馬刺し、岩ガキまでもある。日本一の断崖絶壁や、ローソク島など数々の絶景しかり、隠岐はまさに日本海の宝島だ。

年々ターーンで他県から移り住む人たちが増えていると聞いたが、「灯台下暗し」とはよく言ったもので、山陰の多くの人が隠岐の魅力に気づいていないのかもしれない。

古事記によれば、神様が日本列島をお作りになったとき、最初に淡路島を作られ、二番目が四国、そして三番目が隠岐の島をお作りになった、とある。このことからも古代から隠岐が重要拠点だったことがうかがえる。古地図に記された隠岐諸島も本州との比率でいえばかなり大きい。

後醍醐天皇や後鳥羽上皇の残された足跡や逸話など歴史に裏付けられた隠岐の魅力もまた格別だ。暖流と寒流の交差する位置にあることから漁場としても、海運の拠点としても昔も今も変わらず最高の場所だといえよう。

この連載でも何度となく書いてきたが、行って、見て、話を聞いて初めてわかることとがいかにも多いことか。出演いただいた役者さんが北の植物と南の植物が混在していて、しかも大陸から影響を受けた植生もあって感激したと話されていたのが印象的だった。

私もこれからできる限り、隠岐の魅力について書いていきたいと思います。そして島根ロケ4作目となる新作映画の詳細も、この連載を通じて皆さまにお伝えしていく予定です。乞うご期待！

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載